

令和5年度 一般選抜（後期）

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始の合図があった後、最初に問題用紙と解答用紙の確認を行ってください。問題用紙はA4版片面1枚（表紙、白紙は除く）で、解答用紙はA3版片面1枚です。枚数の不足、重複のないことを確認してください。また、印刷が不鮮明な場合は、手を挙げて試験監督員に知らせてください。
3. 受験番号の記入漏れ又は誤記があった場合は失格になります。
4. 解答は、解答用紙に、横書きで記入してください。
5. 下書きは、別紙の下書き用紙を使用してください。
6. 数字2文字以上を続けて記入する場合は、次のように記入してください。

例① 2023年 →

20	23	年
----	----	---

例② 99.9% →

99	.	9	%
----	---	---	---

7. 濁音（が、ぎ、ぐ・・・）、半濁音（ぱ、ぴ、ぷ・・・）は1文字として記入してください。
8. 体調不良やトイレに行きたい場合などは、黙って、手を上げてください。それ以外の途中退室は認めません。
9. 試験監督員の試験終了の合図と同時に解答するのをやめて、着席したまま試験監督員の指示を待ってください。
10. 解答用紙は、未記入のものも含めすべて回収します。なお、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰って構いません。

令和5年度 一般選抜（後期）小論文試験問題

【問】

「経験」の定義と、その「経験」が真の「経験」となるための3つの条件を、著者の言葉を用いて記述したうえで、その著者の見解に対するあなたの考えを800字以内で論じなさい。

【課題文】

われわれ人間は誰でも、生きているかぎり、否応なしにこの世界のなかで、他者とくに他の人々とかかわりつつ、それぞれの具体的な生を営んでいく。個人の側から見れば、経験とはまず、そのようなわれわれ一人ひとりの具体的な生き方の諸側面あるいは総体のことである。そして、なにかを〈経験する〉とか〈経験を積む〉とかいうことばは、なんらの具体的な内容を示さなくとも、しばしば特別な重い意味をもっている。どうしてだろうか。それは、一つ一つの個々の経験からして、経験というものがわれわれ一人ひとりの生の全体性と深く結びついているからである。

ところで、経験の雛形というべきものを求めていくと、生活世界のなかで、われわれ一人ひとりがなにかの出来事に出会うことがまず考えられるだろう。けれども、ただなにかの出来事に出会ったからといって、それがただちに、われわれ一人ひとりの生の全体性に結びついた経験になるわけではない。なにかのかなり重大な出来事に出会っても、ほとんどなにも刻印をわれわれのうちに残さないような経験、つまり内面化されることのない経験、うわの空の経験、疑似的な経験というものがある。このようなことは誰にも思い当たるところがあるはずである。

そのことを考慮にいれてモデルをつくりかえよう。すると、われわれ一人ひとりの経験が真にその名に値するものになるのは、われわれがなにかの出来事に出会って、〈能動的に〉、〈身体をそなえた主体として〉、〈他者からの働きかけを受けとめながら〉、振舞うことだということになるだろう。この三つの条件こそ、経験がわれわれ一人ひとりの生の全体性と結びついた真の経験になるための不可欠な要因である。これらの条件について考えてみると、まず、われわれの振舞いにまったく能動性がなければ、どんなに多くのことを見たり、聞いたり、したりしても、それだけではなんら経験にならない。或る出来事に出会っても、なにかほかのことに気を取られていたり、ひどく疲れていたり、気が進まなかったりするとき、などによく起こることである。

【出典】

中村雄二郎. 臨床の知とは何か. 岩波新書. 株式会社岩波書店. 1992. p62-63.